

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1091200020		
法人名	医療法人社団三思会		
事業所名	グループホームクララ笠懸		
所在地	群馬県みどり市笠懸町西鹿田 634-5		
自己評価作成日	令和3年12月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	令和4年1月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

クララ笠懸は、開設より10年目になります。今年、コロナ禍で面会制限や外出制限で、ご家族様との接点が少なくホームでの生活が中心となりました。月の行事やレクリエーションを利用者様と一緒に考え、皆で楽しめるように工夫をした1年間でした。ホームで過ごす中、生活のリズムや環境が大切と思い、午前にはウッドデッキに出て外気に当たり青い空を見ながら歩き、午後はラジオ体操とビデオに合わせ歌うことを毎日の日課にしています。天気の良い日は、ホーム周辺の季節を感じながら歩き、時には畑仕事をされている方が手を休め声を掛けてくださいます。スタッフは、開設以前より介護職に携わっているスタッフが揃っています。スタッフ自身、家族の立場を経験しているので、ご家族様・利用者様の思い受け止め寄り添いながら、毎日の生活に不安のないように過ごして頂く支援を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者は、日々のケアのなかでの職員の気づきや意見を大切に、ときには職員に意見をもとめ、ともに考える体制づくりに努めている。食事づくりの一連の過程では、利用者のこれまでの慣れ親しんだ作業が再現されるように努め、理念の具現化に取り組んでいる。また、利用者の意思を尊重し行動を制限することない生活を支援するには、リスクもあることも説明し、自由な暮らしを支援している。ケアプラン作成においては、介護内容に利用者の思いが盛り込まれた内容となっており、日々の記録も介護内容にそった記録となるよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホールの良く見えるところに理念を掲げている。利用者様との関わり方に不安を感じた時や迷った時は、理念に沿った関わりをして実践につなげている。	理念の実践として、気付き・気配り・気遣いを大切に、笑顔で接することも含めて“心地よい環境”と捉え、そうした環境を提供することで、利用者に家にいるような安心した生活を過ごしてもらえるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年に数回、お花を見ながらドライブに出かけています。外出先で、近所の方に逢い、犬を抱っこさせて頂いたり、赤ちゃんをあやしたりと沢山の出会いがあり、会話が弾み地域の方との交流を楽しんでいる。	過去には、公民館で地域住民にむけた勉強会を開催したこともあった。コロナ禍前は、地域行事の案内をいただいたり、ボランティアを受け入れたりしていたが、現在は中止している。広報や新聞を利用者に渡し、地域とつながりある生活環境を提供している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	退所を希望されたご家族様に、ホームでの生活状況を説明し必要な介護方法を自宅に訪問しお話をさせて頂きました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開催中止が続いているので、毎月の行事や日常生活の様子をクララ笠懸だよりにして、運営推進会議開催中止の記録と一緒に報告している。	開催中止となり、会議のメンバーには、事業所の活動がわかるようこれまでより紙面をふやした「クララ笠懸だより」を郵送している。コロナ禍前は、区長や民生委員から、行事やボランティアの紹介などの情報提供があり、活動に活かしていた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の記録を提出の為、担当者に逢い、クララ笠懸だよりを見て頂き、ホームでの取り組みを伝えている。わからないことは、電話での対応で協力関係を築いている	報告や通知などを、市担当者に直接提出している。ワクチン接種や、コロナ禍での外部評価実施について相談し、運営をすすめている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々、介護の中でベットの位置・ベット柵・車椅子の位置・ベットの足側のギャッチアップ等の拘束に近い行為は、スタッフで話し合い拘束をしないケアに取り組んでいる。	自由な暮らしを提供するうえで、リスクは伴うものであり、安全を考えるあまり行動を抑制することがないように注意したうえで、身体拘束につながるケアにならないか職員で検討している。スピーチロックのような言葉があったときには、管理者が言い換えて利用者に伝えることで、利用者職員へのフォローになっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内で、勉強会を開催する。参加できないスタッフは、自主勉強し全員が虐待について、注意と防止に努めブラックケアの行為に対して、スタッフ同志が気づき合えるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	スタッフ同志、成年後見人の必要性があることは話しをしている。学ぶ機会を持ち活用できるようにしたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に面談を行い、ご家族様の不安や疑問のないように丁寧な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1回、ご家族様にアンケートを実地してご意見やご希望を聞く機会を設けている。今年度は、コロナ禍で面会の制限や解除の連絡を早めにして欲しいとの要望がありました。	コロナ禍で面会制限があり家族が利用者に出会えない状況が続いているので、事業所での様子を写真にした「クララ笠懸だより」を郵送するとともに、いいことも悪いこともふくめて現状を伝えることで、家族が意見を言いやすいような信頼関係を築く努力をしている。年に1回家族アンケートを行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎年、自己目標表を提出している。意見や提案を記入、各自、面談を行い聞く機会を設けている。	管理者は、職員とともに日々のケアにおける気づきやアイデアを出し合い、費用負担の少ない使いやすいパットの選定や、加湿器の購入などが行われている。また、職員に意見をもとめたり、活躍する機会づくりを行ったりと、職員を育てることに力を入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月、公休希望を入れている。有休も出来るだけ入れている。各自が、平等に休めるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会が持っていない。日々の介護の中で、働きながらのトレーニングを重要と思っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部の専属の看護師が常備していたので、感染予防対策等の勉強会を開催し質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期は、ご本人も気が張っていることもあるので不安や要望を話さないことがある。表情を見て声掛けし安心して頂くよう関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所するまでの生活状況や性格を細かく聞き取る事で関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今、必要としている支援を観察や関わる中で見極め対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が困っていることを引き出す対応を行い、特に、丁寧な言葉遣いを心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	どんなに小さな事でも連絡を取り、ご家族様の意向を伺っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍でもある為、個々での外出は出来たくない。ホームで、ドライブの計画を立て季節のお花みや馴染みの場所に出掛けている。	入居時にこれまでの馴染みの人や場所を把握しており、過去にはお茶の師匠が面会に来てお茶をたのしむことがあったが、コロナ禍で行われていない。そのため、会話のなかで馴染みの人や場所について深掘りしている。また、エプロンをつけて料理をすることで、「女性らしいことができた」と、これまでの慣れ親しんだ作業に取り組む機会をつくっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	車椅子の方が2名います。食事の時間と10時・3時に必ずホールに案内して皆さんと一緒に過ごして頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	出来るだけ相談や支援に努めたいと思う。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご自分の気持ちを伝えられない方や思い出せない事、言葉に出せない事を把握し行動観察を十分に行い検討している。	表情やしぐさに気持ちが表れると考え、その変化をキャッチするようにしている。また、環境の変化が及ぼす影響にも配慮して、事業所内におけるその人が決まって座る場所などルーティン化することで、安心できる環境づくりに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自宅での生活をご家族様に情報を得て、その人らしい生活環境になるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事以外は居室で過ごされている方がいます。最近食事以外10時・3時にもホールへ来られる様になり、声掛けを心が無理はしない。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成時、ご本人とご家族様にケアの希望を伺い話し合いを行っている。又、スタッフの担当者がモニタリングを行い、カンファレンス実施し意見を出し合っている。	ケアマネジャーは、職員の意見や日々の記録をもとに、職員がケアの実践に繋がりがしやすいよう、内容を意識して、介護サービス計画書を作成している。職員は、介護内容に特化した支援内容がわかるように日々の記録を行っている。担当職員によるモニタリングが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿ってケア記録に記入し、気付いた事や工夫の情報を共有して見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	些細なことでも対応して、ご家族様に報告とご希望を伺いサービスに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で、地域の活動に参加出来ていないが、参加出来るようになったら楽しめる支援をしたい。毎月、区長さんがみどり広報を届けて下さるので、本コーナーに置き見て楽しませている。又、上毛新聞を見て地域の様子を楽しませている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1ヶ月に2回往診に来て頂いている。何かあれば訪看と連携を取りかかりつけ医に報告し指示をもらっている。	事業所の協力医による月に2回の往診があるが、これまでのかかりつけ医を継続して受診することも可能であり、家族の付き添いを基本としている。往診の場合には「往診表」で事前に依頼内容を伝え、その他眼科など受診の場合には「受診用紙」で受診結果や次の受診について記録して情報共有に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1週間に1回、訪看が来所し診て頂いている。必要に応じて相談し指示を頂いている。又、具合が悪くなった利用者様について報告し指示を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様の状況を、情報交換しながら入退院時の連携を図っている。入院中は、病院の担当者の方が途中経過を知らせ、退院に向けて相談していただきます。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人やご家族様に、希望を伺い支援がスムーズに進めるようにしている。体調の変化に応じて面会時や電話連絡で確認をしている。	入居時に対応指針があり説明し、看取りが行われている。医療的支援については、訪問看護と連携をとりながら行っており、事業所での看取りに利用者の負担がないのか利用者の視点にたち、さらに、職員の心の負担を軽減するための心配りも行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナウイルス感染対策・ノロウイルス感染対策の発生時の対応に備え、防護服の着脱と処理についての実践を行った。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年に2回行い、日中想定と夜間想定で行い、どちらかに参加している。水害時は、ハザードマップの情報を必ず確認している。	年に2回避難訓練が行われ、過去には運営推進会議にあわせて行い、会議メンバーに参加してもらっている。地域の協力の必要性や、災害時における事業所の活用などについて意見がでたこともあり、事業所の活用については、利用者の生活を最優先に活用をすすめる考えがある。	災害時における地域の具体的な協力体制づくり(役割)とともに、事業所における利用者の生活を最優先にした地域の人の受け入れの方法など、相互援助にむけた具体的な取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の性格を把握しご本人の気分を害する発言はしないようしている。又、会話の受け止め方の違いを避けるために日頃のコミュニケーションは充分取るように心掛けている。	一人ひとり違うので、丁寧な会話を心がけている。また、すぐに忘れてしまうとしても、その瞬間を大切に対応している。入居されても、これまでやってきたことは変わらない事実なので、そうしたやってきたことを守っていただけるような対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「傾聴し共感する」を心掛け自己表現しやすい会話や環境を作るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日決まった時間にレクリエーションを行っているが自由参加にしている。 ご本人のペースで思うような生活を尊重して無理強いはいしない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みの物を身につけて頂いている 支援必要の方には着心地を重視した支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に一回以上「イベント食の日」を設け、工夫したメニューやイベントに合わせた献立を提供して楽しんで頂いている。	食材が届き、厨房の職員が手作りの食事を提供している。その他、行事にあわせた食事では、利用者がエプロンをして野菜を切る・料理を並べる・片付けなど一連の流れのなかでできることをしてもらいながら、できることをたのしんでもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日のカロリーが計算されたメニューを調理し提供している。 状態に合わせた食事形態や脱水予防の為、水分量のチェックも行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促している。必要な方には、介助を行いケアが不十分な方には支援をしている。必要あれば訪問診療を依頼する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗が目立つ方は、ご本人の自尊心を損なわないように適切な排泄用品を選び一人でできるように支援を行っている。	自分の意思でトイレに行ける方がおり、トイレがわかる表示をしている。その時々でトイレでの一連の作業が認識できなくなる方には、状況にあわせてその時々をサポートして、できることをしていただいている。パットの費用面にも考慮して適切なパットを選択することで、取り換えることの抵抗をなくし、快適に過ごせるようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックを行っている。1日以上排便がない時は、飲み物で調整するが事前に医師に相談し薬を処方して頂き内服薬で調整し重症化しない予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間は決めていないが全員が均等に入浴出来るように工夫をしている。希望が無ければスタッフから声を掛け入浴をしている。	週2回の入浴としている。1対1での支援とし、服に着替えるまでは、次の人は入れないことを徹底している。ときには、入浴を断ることや、嫌がる顔をしたときには日にちを変えることで、気持ちよく入れるようにしている。自分の好きなシャンプーを使ったり、入浴後に化粧水を使ったりして、たのしみできるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の習慣を把握し入眠時の衣服・室内灯・寝具空調など、ご本人の好みや環境に合わせた支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の内容を理解し食べ合わせなどにも注意している。状態の変化が見られたら直ぐに訪看や医師に相談をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	イベントを行いゲームなどをして楽しんでいる。他にもカラオケ・工作・散歩・等々・気分転換になるような支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、満足して頂ける支援はできないが見月に1回のドライブを楽しんで頂いている。車窓の時と車外に出て散歩なども楽しんでいる。	近隣の散歩は、事業所周辺をひとまわりしている。外気にふれることだけでなく、歩けたという達成感を味わうことも大切に考えている。コロナ禍で、ドライブの他、ウッドデッキを活用し赤城山などの景色をみるなど、季節を感じるなか行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族からお小遣いを預かっている事を伝え、今は外出が出来ない為、必要な物をスタッフに依頼し対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持って来られた方はご自由にやり取りされている。操作が分からない時はスタッフが対応している。家族の声が聞きたいと要望があればスタッフが間に入ってかけている。年賀状をご本人に書いて頂きやり取りをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内の温度や湿度・明るさ音などスタッフが管理していつでも快適に過ごせるように調節している。ホームの壁飾りを利用者様と作成し飾っている。庭に季節の花を植えて季節を感じて頂いている。	利用者とともに作った季節にあわせた飾りが、掲示されている。利用者が決まったところにいることが、他の利用者も安心できることもあり、そのひとの居場所(座る場所)を決めている。また、本コーナーには、新聞や料理の本も置かれており、新聞は習慣で毎朝利用者皆で回し読みをすることが、1日の流れの1つとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの席が決まっている。気の合う方とグループ席にしている。TVの前に長ソファを置き皆さんで並びTVを観たり気の合う方とお話ができるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自身の洋服をハンガーラックにかけたり、使い慣れたタンスやTVを持って来られる方もいます。タンスの上にご家族の写真やご自分で制作した装飾品などが飾られています。	居室には、テレビやタンス・ハンガーラックなどが置かれている。携帯電話を持ってきて利用している方もおり、操作がわからないときには、職員が手助けしている。また、天皇陛下の本をご覧になる方もおり、それぞれ自由に過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯干しやたたみ・食器拭き・モップ掛けなど、ご自分で出来る事をお手伝いして頂いています。		